



総合教育センターだより

Be
Connected



平成24年8月17日(金)
第41号(通算第124号)
京都府総合教育センター
TEL : 075-612-3266



生徒指導と特別支援教育 — 児童生徒の理解のために — <その1>



まもなく2学期が始まります。これから2回にわたって、主に発達障害のある児童生徒に関わる生徒指導について考えます。

発達障害のある児童生徒に見られる様子

発達障害のある児童生徒は、落ち着きや集中力がなく、その場にそぐわない言動をするなど、通常の学級での集団生活や他者との関係の中でつまずきや困難を示している場合が少なくありません。

そのようなつまずきは「わがまま」や「努力不足」と受け止められることも多く、注意や叱責を受ける回数も増えるので、自己評価が低下し、劣等感を抱くこととなります。

発達障害のある児童生徒への理解

「自己制御」（自分の行動をコントロールする力）や「感情抑制」（自分の感情をコントロールする力）は自然に身につくのではなく、他者との関係や学習等を通して身につくものとされています。発達障害のある児童生徒が適切な支援のないまま対人関係や集団生活でつまずきや失敗を繰り返し続けることになれば、自分をコントロールする力が身につかないばかりか、力のある方がルールを支配するといった間違った理解をしてしまうことも考えられます。

対応について

大切なのは周りの大人の理解です。

適切な対応をするためには、本人の特性を的確に把握することが必要です。また、目に見える行動だけでなく、その背景にある「苦手」や「わかりにくさ」に目を向ける必要があります。

個別の支援と集団指導の両方が必要です。

児童生徒の特性に応じて、望ましい行動を具体的に助言したり支援したりする必要があります。また、友だちとのトラブル時には、大人が双方への「通訳」をすることも効果的です。

一方で集団指導の観点も重要です。違いを認め合い、助け合える学級経営を進めること、誰にでもわかる授業づくりをすることで、発達障害のある子どもだけでなく、誰もが落ち着いて学べるような環境が整っていくこととなります。

問題行動後の指導には振り返りが有効です。

問題行動を起こしたときは、丁寧に振り返りの作業を行うことが有効です。振り返りは単なる反省や謝罪のためではなく、どういう状況で何が起こったのかを客観的に整理するものです。また、大切なのは、次に同様のことが起こったら、どう対応すればよいのかを一緒に考え、具体的な行動例を示すことです。

今回は、青年期の発達障害のある生徒について考えます。



「小学校教員理科研修」

京の教員特別セミナー



京都大学と京都府教育委員会の連携事業



7月25日（水）～27日（金）

京都大学総合博物館、京都大学花山天文台

京都大学生存圏研究所、京都大学防災研究所



感想

・対話型の美術鑑賞教育プログラムACOP（エーコップ）を体験して、「みる、考える、話す、聞く」の内容が理科のみならず全ての教科指導の基本だと感じました。例えばなんとなく見るのではなく、視点をもって考えながら隅々まで見ることや、他人の意見に耳を傾けて聴くこと、これらは科学的なものの見方を身につけるのにとっても大事だと思いました。

- ・自分だけでは理解、発見できなかったことも、みんなで意見を出し練り合う中で、理解が深まり本質に迫ることができた。まさに「学び合い」の学習となった。
- ・本研修で得られたことを多くの子ども達に伝えていきたい。



講座報告

企業から学ぶ組織の活性化講座

（企業連携）

7月27日（金）総合教育センター

株式会社 アオキ 代表取締役社長 青木豊彦

感想

・学習、スポーツなど知識や技術を指導する際に、教師自身が夢・情熱を持つこと、そして子どもに伝えることの大切さを再認識した。多忙化の中に情熱や誇りが埋もれてしまっていないかということを考えたい。

・青木社長のバイタリティに感動した。人と人とのつながり、校長、教員、生徒との信頼関係が最も重要であることを常に認識し、教育活動に取り組んでいきたい。

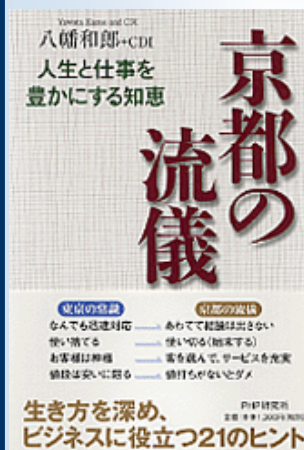


人材育成支援室より お薦めの一冊

京都の流儀

～人生と仕事を豊かにする知恵～

八幡和郎 PHP研究所



京都には、千年の都としてにじみ出てくる独特の文化がある。

京都という町に息づいている知恵や流儀、それを上手（うま）く活用すれば、もっと仕事や生活に幅が出るのでは。そんなことを学ばせてくれる一冊。（G.F）